

- (1) 学会活動の電子化の一環として、革新的な電子化学会活動を目指した第三種研究会である「フォーラム e-ソサイエティ」をソサイエティ活性化基金の支援を受け3月に立ち上げ、その活動を促進させた。また、ベンチャーの支援のための「エレクトロニクスベンチャー研究会（第三種）」の活動を連携させて活発化させた。今後、これらの研究会活動を通して、電子化による学会からの効果的な周知・連絡のみならず会員相互間の連携や新たな分野やベンチャーの創成などへの発展が期待される。
- (2) 次世代の研究・技術者である学生の研究活動の促進を目的とし、ソサイエティ活性化基金による学生海外国際会議参加支援制度を昨年度半年間の試行として実施し、その効果を上げることができた。
- (3) 9月に開催したソサイエティ大会のプレナリーセッションにて第2回のフェロー贈呈式、及びSiエレクトロニクス分野（柴田直/東北大）、化合物半導体及び光エレクトロニクス分野（向井孝彰はか/NTT）、エレクトロニクス一般分野（岩本光正/東工大）のエレクトロニクス賞の授賞式、記念講演を行った。なお、第2回のフェロー推薦に関しては本ソサイエティから20名の方がフェロー称号を授与されることとなった。
- (4) サマーミーティングは今年で5回目を数え、昨年7月6日（金）に機械振興会館で合計7研究専門委員会の合同で盛況に開催された。
- (5) ソサイエティの国際化推進の一貫として平成11年度よりスタートした国際活動支援補助金により国際会議開催などの活動に対してソサイエティとして支援したが、引き続き実施し、その効果を上げた。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティの平成13年度の活動は以下のとおりである。

- (1) 情報科学技術フォーラム（FIT：Forum on Information Technology）の推進
昨年度末に情報処理学会（IPJS）会長と本学会会長、ISS会長により、IPJSとISSの協力関係を推進する覚書が交わされたが、協力の具体案として、IPJSの秋の全国大会とISSのソサイエティ大会を統合し、新しい形の大会「情報科学技術フォーラム」を企画することにした。昨年度からのIPJSとISSのワーキンググループでの協議の結果を受け、大会を推進する推進委員会が今年度発足した。その委員会の下に、実行委員会とプログラム委員会が設立され、第1回を2002年9月に東京工業大学（大岡山）で行うこと、現在、準備を進めている。

(2) 最後のソサイエティ大会

来年度からFITを行うため、ISSとしては最後となるソサイエティ大会を行った。ソサイエティ特別企画として、HCGグループと合同で特別企画「障害者、高齢者が参加しやすいIT化社会」を行った。ソサイエティ活性化基金を活用した海外招待講演を含む2件の基調講演とそれに続くパネル講演、一般講演からなる企画で、手話者が用意され、障害者も自由に参加できるように配慮された。IT化が進む中、情報弱者を生む問題は重要な課題であり、共催により、大規模な企画として多くの聴衆を集めたことは意義があったと思われる。その他、パターン認識とメディア理解アルゴリズムコンテストなど多くの企画が行われ、充実した最後のソサイエティ大会であった。

- (3) 第2回ソサイエティ論文賞の表彰及び記念行事
ISSではソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。

第1回となる昨年度はサーベイ論文が選ばれたが、今年度は先見論文、連作論文の二つのカテゴリーで初の受賞論文が決定し、ソサイエティ大会で表彰式と受賞記念講演を行った。

- (4) 第2回フェロー贈呈式及び第3回フェロー候補者推薦

ソサイエティ大会において第2回のフェロー贈呈式を行い、28名の方々にフェローの権を贈呈した。今回は「研究開発の回顧と学会への期待」についてお話しを頂きたい旨を事前にお願ひしておき、興味深い話や、有益な御意見を伺うことができた。

なお、第3回フェローについては推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会で審議し、21名の方をフェローノミネーション委員会へ推薦することになっている。

- (5) ソサイエティ誌の改善

ソサイエティ誌をより多くの会員に読んでもらうため、独自に会員の電子メールアドレスを作成し、発行日に広報のメール発信を行うようにした。

- (6) IEE E及びIEEE CS (Computer Society)との提携

IEEE及びIEEE CS (Computer Society)との協力関係について昨年度から協議してきたが、その案がまとまり、2002年1月に覚書に調印した。これに基づき、今後、両者間の各種の協力及び相互の会員サービスの提供などが進められる。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

年度初めより第一種研究会となった福祉情報工学研究会を含め四つの第一種研究会、一つの第三種研究会にて今年度の活動を開始したが、年度途中からは新たに第二種研究会「インタラクティブによる知識の創生」研究会が発足し、関連分野の研究活動の促進に務めた。

今年度はHCG傘下の全研究会により恒例のHCG大会を開催し、特にその中で特別講演「街の情報化を考えるー“いまだけ・ここだけ”の情報環境デザインー」、及びセミナー「情報の検索・探索技術」を開催した。更に、一般市民への広報活動の一環として、特別講演「いい顔 いい心 いいコミュニケーション」やパネルディスカッション「バーチャルリアリティと通信が創る未来」を含む市民講座を開催した。2回のニューズレターを発行し、学会員へ活動をPRするとともに、ユニバーサルデザインを採用したホームページの整備を行った。また、HCG関連領域の研究活動の活性化とHCGの今後の発展に向けて、各種調査・議論を行い、上記第二種研究会の発足・活動など、新しい方向性に向けた体制の拡充を実施した。

1. 大会に関する事項

ソサイエティ大会

下記の期日・会場において各ソサイエティが開催した。

期日 平成13年9月18日（火）～21日（金）

会場 電気通信大学（東京都調布市）

参加者 4,759名

懇親会 電気通信大学 大学会館「ハルモニア」参加者 166名

(1) 基礎・境界ソサイエティ大会

特別企画	4 課題
パネル討論	7 課題
チュートリアル講演	3 課題
一般講演	250 講演
シンポジウム講演	24 講演
合計	274 講演

(2) 通信ソサイエティ大会

特別企画	2 課題
パネル討論	5 課題
チュートリアル講演	2 課題
APCC2001 とのジョイント	1 課題
一般講演	995 講演
シンポジウム講演	81 講演
合計	1,076 講演

(3) エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画	2 課題
パネル討論	2 課題
チュートリアル講演	3 課題
一般講演	361 講演
シンポジウム講演	46 講演
合計	407 講演

(4) 情報・システムソサイエティ大会

特別企画	1 課題
パネル討論	4 課題
チュートリアル講演	2 課題
コンテスト	1 課題
一般講演	289 講演
シンポジウム講演	22 講演
合計	311 講演

2. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所
第10回 光・複合アクセス網/FSAN ワークショップ2001 (OHAN/FSAN2001)	2001.4.4-6	186	60	横浜グラウンド・インターコンチネンタル・ホテル
COOL Chips IV—An International Symposium on Low-Power and High-Speed Chips—	2001.4.19-20	186	33	機械振興会館
2001 International Symposium on Multi-Dimensional Mobile Communications (MDMC2001)	2001.6.11-12	約100	63	Pori, Finland
2001 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2001)	2001.7.10-12	414	329	徳島県: ホテルクレメント徳島
第4回レーザー・エレクトロロプティクスに関する環太平洋会議 (CLEO/PR2001)	2001.7.15-19	994	701	日本コンベンションセンター
シグナル、システムとエレクトロニクスに関する国際会議 (ISSSE'01)	2001.7.24-27	122	116	ホテルグランドパレス
Joint Workshop on Web Intelligence and Software Engineering	2001.8.30-31	30	15	Beijing Polytechnic University (China)
第7回アジア太平洋通信会議 (APCC2001)	2001.9.17-20	311	164	電気通信大学
第28回化合物半導体国際シンポジウム (ISCS2001)	2001.10.1-4	350	319	東京大学数理学部研究科大ホール
2001 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2001)	2001.10.28-11.1	233	164	宮城県: 宮城蔵王ロイヤルホテル

分類	論文	レター	その他	計	特集回数	発行部数
分冊	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	回	部
第4回アジア太平洋情報通信技術シンポジウム	2001.11.7-8	140	75	日本: ホテルニューアカオロイ オキナルウイング ネパール: トリブバン大学		
International Workshop on Advanced Image Technology 2002 (IWAIT2002)	2002.1.17-18	60	48	台湾/花蓮		
Theoretical Methodological Issues on Machine Translation 2002 (TMI2002)	2002.3.13-15	100	20	NTT 京阪奈ビル		

3. 出版に関する事項

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に5種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は9,890ページである。

分類	論文	レター	その他	計	特集回数	発行部数
分冊	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	回	部
A	145	29	—	174	2	95,700
	1,360	135	161	1,656		
B	205	30	—	235	2	163,200
	2,022	119	163	2,304		
C	130	31	—	161	2	107,700
	1,097	102	175	1,374		
D-I	152	15	—	167	3	69,300
	1,570	65	173	1,808		
D-II	254	22	—	276	2	102,900
	2,493	102	153	2,748		
計	886	127	—	1,013	11	538,800
	8,542	523	825	9,890		

* その他: 総目次80ページ, 巻頭言20ページ, 英文誌紹介125ページ, 特集号募集案内等付物600ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に4種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は11,280ページである。

分類	Paper	Letter	その他	計	特集回数	発行部数
分冊	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	件数 ページ数	回	部
A	302	72	—	374	16	28,400
	2,633	321	210	3,164		
B	323	70	—	393	9	36,700
	2,902	299	233	3,434		
C	323	24	—	347	13	35,400
	2,262	89	219	2,570		
D	185	38	—	223	8	28,000
	1,705	166	241	2,112		
計	1,133	204	—	1,337	46	128,500
	9,502	875	903	11,280		

* その他: 総目次115ページ, Abstract 274ページ, Foreword 84ページ, 特集号募集案内等付物430ページ

3.3 ニュースレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター, ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおりに発行した。